

広島大学短期交換留学 (HUSA) プログラム 派遣留学報告書

	記入日 平成 28年 1月 5日			
留 学 先 大 学	オークランド大学 (国名： ニューージーランド)			
所属学部・学科等名	Education, Arts			
在 籍 身 分	Exchange student			
留 学 期 間	平成 29 年 2 月 22 日～平成 29 年 12 月 27 日			
1. 渡航について				
ビザについて	ビザの種類： 学生ビザ			
	ビザ申請先： ニューージーランドビザ申請センター			
	取得方法, 提出書類： パスポート、大学での成績証明書、留学先の入学許可書、預金残高証明書、 預金取引明細表、胸部X線検査結果、往復航空券など			
	手続きに要した日数：約3週間			
その他必要な 事前手続き	海外旅行保険加入、所属学部支援室への留学願提出、単位互換の手続き、 日本学生支援機構奨学金一時停止手続き			
出 国 年 月 日	平成 29 年 2 月 22 日			
経 路	広島空港 → 羽田空港 → 成田空港 → オークランド空港			
現 地 での 出 迎 え	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (大学関係者) <input type="checkbox"/> 無			
到着後オリエンテーショ ンの実施状況・ 期間・内容	2月27日～3月3日 オリエンテーション期間 留学生のためのオリエンテーションは27日のみだったが、興味がある場合は他学部の オリエンテーションにも参加可能。 内容は、大学内の施設や履修登録の説明、学内のイベントなどに関する案内など。			
帰 国 年 月 日	平成 29 年 12 月 27 日			
経 路	オークランド空港 → 関西国際空港 → 広島			
2. 留学経費について				
所 要 経 費	総額	約 205 万	円	
	内 訳	渡航費	約 16.5 万	円
		保険料	約 11.5 万	円
		教科書代(学費)	約 5 万	円
		宿舍費	約 108 万	円
		食費	約 40 万	円
		その他 (交通 費)	約 1 万	円
(通信 費)	約 3 万	円		
(娯楽・教養 費)	約 20 万	円		

3. 授業について			
2017年 前期	3月 6日	～	7月 3日
2017年 後期	7月 24日	～	11月 20日
年 学期	月 日	～	月 日
年 学期	月 日	～	月 日
授業の概要について (カリキュラム, プログラム等)	前期: Education、Wine Science のコースを一つずつ、Academic English のコース二つ 後期: Education、Language Teaching、Academic English のコースを一つずつ		
単位互換希望の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 ※有の場合, 所属学部支援室へ提出の単位認定申請書類のコピーを添付すること		
学術面に関する後輩へのアドバイス	ディスカッションや、膨大な量のリーディング、1500～2000 words のエッセイ課題など、高い英語力が求められます。渡航前にレベルを高めていくほど、現地での講義を楽しめると思います。		
4. 生活等について			
(1) 留学先の住居について			
住居の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他 ()		
住居の広さ	約 12 m ²	同居人の有無	<input type="checkbox"/> 有 (人) <input checked="" type="checkbox"/> 無
住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 電気 <input checked="" type="checkbox"/> ガス <input checked="" type="checkbox"/> 水道 <input checked="" type="checkbox"/> 給湯 <input checked="" type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 風呂 <input checked="" type="checkbox"/> 水洗便所 <input checked="" type="checkbox"/> 暖房 <input checked="" type="checkbox"/> 冷房 <input checked="" type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> 固定電話 <input checked="" type="checkbox"/> インターネット <input checked="" type="checkbox"/> その他 (TV、コミュニティルーム、コミュニティキッチン、ランドリールーム、防音室(ピアノ、ドラムセット有)、学習室、ゲームルーム(卓球、ビリヤード)、BBQ エリア、シアタールーム、台所用品(食器、カトラリー、電気ケトル、冷蔵庫、電子レンジ、トースター、鍋など) 付属)		
住居費	1ヶ月当たり NZD \$1352	(現地通貨)	約 105000 円
住居を決定した方法	<input checked="" type="checkbox"/> 留学先大学の紹介 <input type="checkbox"/> 友人・知人の紹介 <input type="checkbox"/> 不動産業者 <input type="checkbox"/> その他 ()		
留学先での住居全般に関するアドバイス	55 Symonds という 2017 年オープンの新しい寮に住んでいました。家賃は高いですが、立地が良く、スタッフの方も丁寧で、設備も充実していたので不自由はありませんでした。同じ大学の仲間が暮らしている寮は、コミュニティエリアでのやりとりや寮のイベントなどを通して、寮の中だけでもたくさんの友達を作ることができるのでおすすめです。		
(2) 医療について			
1日以上入院を要する 病気・怪我等を	<input type="checkbox"/> した <input checked="" type="checkbox"/> しなかった		
入院した場合	により 日入院		
留学に当たり保険を	<input checked="" type="checkbox"/> 掛けた <input type="checkbox"/> 掛けなかった		
掛けた場合	<input checked="" type="checkbox"/> 日本 <input type="checkbox"/> 留学先国 <input type="checkbox"/> その他 ()		
掛け金は	10か月 115780 円	補償額 死亡 1000万円, 入院1日 円	その他 ()
留学前後での予防接種	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無		

の必要の有無		
有の場合、その種類、回数、費用、受けた医療機関名		
日常的な健康について不安が	<input type="checkbox"/> あった <input checked="" type="checkbox"/> なかった あった場合その理由：	
留学先国の医療事情（日本と比較して）	民間の医療機関についてはわかりませんが、体調不良になった場合、大学に保険管理センターがあるので、まずはそこにかかると思います。	
留学先での健康管理、衛生面について特に注意すべきこと	衛生面に関しては特に注意することはありません。水道水も飲むことができます。健康管理については、一日の中で気温の変化が大きいため、寒暖差に注意してください。	
(3) 危険を感じた地域、状況		
ありません。オークランドは比較的治安の良い街ですが、暗くなってからの公園などへの立ち入りは必ず控えてください。		
(4) その他生活等に関して参考となる事項		
物価は日本の約3倍と高いですが、アジアマーケットやDASIOなどもあり、大体のものは現地で手に入ります。		
5. 帰国後の進路について		
卒業予定年月	平成 31年 3月 (当初の卒業予定年月 平成 30年 3月)	
卒業が遅れる見込みの場合、その理由	<input checked="" type="checkbox"/> 4年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input type="checkbox"/> その他(具体的に)	
現在の状況および今後の予定・進路等	現在、帰国後に参加できるインターンシップへの応募を検討している。帰国後は本格的な就職活動と卒論を開始する予定。また、教職課程をとっているため教育実習を控えている。	
就職活動や留学前の単位取得、教育実習等についての工夫	帰国後スムーズに就職活動に入れるように、留学期間中も就活に関する情報や日本ニュースなどにはアンテナをはるようにしていました。また、教育実習に関しては、参加必須の説明会などが留学期間中に開催される場合があるので、留学中でもこまめにもみじを確認して、必要な場合には大学と連絡を取るようになっています。	
6. 留学準備、留学中に役立った書籍、ウェブサイト等		
書籍、サイト名	詳細(出版社、URL等)	コメント
NZ Daisuki.com	https://nzdaisuki.com/	生活情報など、何でも調べられる総合情報サイトです。
地球の歩き方	ダイヤモンド社	るるぶなどよりも詳細情報が多いのでおすすめです。
7. 自由記述(後輩へのアドバイス等)		
気になることや不安なことは、過去に長期留学を経験した先輩に何でも聞いてください。実際に私も、同じオークランド大学に留学された先輩にかなり支えてもらいました。留学報告会などのイベントで、そのような先輩方に出会えると思います。留学は準備段階からかなりのエネルギーを必要としますが、助けてくれる人は必ず見つかるので、一人で抱えずにまずは相談をしてください。		

【生活の概要に関するレポート】

留学中、私の生活の基盤はすべて寮にありました。現地に着いてすぐに多くの友達を作ることができたのは、300人以上のオークランド大学生が住む寮で生活できたからだと思います。寮で頻繁に行われるイベントや、コミュニティエリアでの交流を通してできた仲間たちとは、一緒に勉強や料理をしたり、週末にはアウトドアへ出かけたり、旅行へ行ったりもしました。英会話のコンプレックスを克服することができたのは、寮でできたフレンドリーな友達のおかげです。英語のスキルに関しては自信の獲得と喪失の連続でしたが、そんな中で、いつもサポートしてくれる仲間が近くにたくさんいたのは本当に幸せなことでした。費用のことを考えると、寮ではなく、個人的にフラットメイトを探して安いアパートを探すという選択肢もありましたが、安全面やコミュニティの質を考慮すると、少々家賃が高くて大学の寮に住んでよかったと今は思っています。このように、恵まれた環境で留学生活を送ることができたのですが、どれだけいい環境であっても、それを活かせるかどうかは自分次第だと思いました。逆に、どんな環境であっても、自分の考え方や姿勢一つでそれは良くも悪くもなるのだと思います。

学内のサークルであるコンサートバンドとオーケストラでの活動によって、留学先での生活がさらに充実したものになりました。私は留学を志したときから、オークランド大学で音楽サークルに入ることを決めており、自分の楽器を持っていくほど、現地での音楽活動は留学中の目標の一つでした。言葉の壁に苦しむ時期が何度もありましたが、そんなときでも、音楽は共通のコミュニケーションツールでした。世界中から多様なバックグラウンドを持つ人たちが集まって一つの音楽を創るというのは、留学中だからこそできた経験だと思っています。バンドメンバーと一致団結し、コンクールに出場して金賞を受賞したことや、定期演奏会で大曲を吹き切ったことは、留学中の数えきれない経験の中でも、一生の財産になるような思い出です。

さらに、移民の多い地域であるオークランドで生活しながら常に感じていたのは、多様な文化の融合です。単一民族の代表国ともいえる日本から来た私にとって、それはある意味大きなカルチャーショックでした。見た目はもちろんのこと、考え方や、生活、常識といったものが全く異なる人たちが一つの場所で共生しているのはとても新鮮でした。そんな中で、自分は自分のままでいいということ、人と違う部分こそが個性であり、それが一人ひとり違うからおもしろいことに気付きました。時にはそれに疲れてしまうまでに、周囲と合わせることに一生懸命である日本人特有の気質は、長い間守られてきた日本の大切な規律や風潮を保つために必要なものかもしれません。しかし、違うことを受け入れる、多様性を認めることができれば、結果として自分自身を大切にすることにもつながるのだと思いました。

【学習の概要に関するレポート】

オークランド大学在学中は学習に関して苦労したこともたくさんありましたが、帰国してから改めて振り返ると、そこでの学びはすべて特別だったように思います。同じ「学び」でも、英語をツールとして理解できたときの喜びは大きく、新しい知識が増えていくことそのものの楽しさに、改めて気付くことができました。

交換留学の意義の一つは、ローカルの学生と一緒に同じ講義を受けることができることにあると思います。その分、語学留学とは全く異なり、英語は使えることを前提として講義は進められて課題も出されるので、留学前は日常的に英語に触れる機会が少なかった私にとって、要領をつかむまでは授業についていくのに必死でした。幸い、大方の講義は録画され、再生速度を変えながら視聴できる動画としてアップロードされるので、講義の復習や聞き取れなかった部分の確認などはそれを見ていました。たった一回の講義を理解するのに他の学生の何倍もの時間がかかりましたが、なんとか授業についていこうと頑張れたのは、周りの友達に刺激を受けたからです。日本と比べて、明確な目的意識を持って能動的に講義に臨んでいる人が多く、授業規模に関係なく、積極的に発言する人、疑問点を共有しようとする人がほとんどでした。活発な発言で講義を盛り上げていく学生たちと、自由な意見交換を促す講義室全体の雰囲気、そして、どんな些細な発言でも丁寧に拾い、活かしながら授業を面白くしていく先生。出席者全員で作り上げる、一回一回が特別な講義に毎回刺激を受け、そのたびに、もっと理解したい、自分も発言できるようになりたい、そんな気持ちが増えていきました。

各コースで試験とは別に課題が出されましたが、その中には、自分の能力では絶対にできないと感じるものもありました。その一つだったのが、教育心理学の授業における2000単語以上のレポート課題です。課題が発表されたときは正直途方に暮れましたが、添削など、友人の協力も得てなんとか提出することができました。その経験を通して気付いたのは、自分の限界を越えようとして努力することで、それまで辛いと思っていたことが楽に思えてくることです。それまで難しいと思っていた1000単語前後のレポートが簡単に思えるようになり、確実に自分のキャパシティが広がったことを実感しました。

また、大学の先生の一人と、帰国後も連絡を取り合うまで親しくなることができましたが、その人の協力があつたからこそ、留学中充実した学びができたと思っています。履修する際に相談にのっていただいたり、英作文の添削指導などもしていただいたりしました。自分から探していけば、親身になってサポートしてくれる人に必ず巡り合えると思います。なんでも一人でしないといけなと思わずに、サポーターを見つけて協力を求めることも、留学中は必要な力だと感じました。

